

農村伝道神学校学報

学校法人鶴川学院
農村伝道神学校
発行人：ロバート・
ウィットマー

JATE ~ Affirming Ministry

本校教師 平良愛香

農村伝道神学校として関わっているいくつかの活動の中から、今回は「JATE」と「カナダ合同教会 Affirming Ministry」を学ぶプロジェクトの二つを紹介します。どちらも聞きなじみのない人が多いかもしれませんが、大切な、そして結構農伝が期待されている(?)活動です。

☆ JATE は日本神学教育連合会 (Japan Association of Theological Education) と言います。日本にあるプロテスタント・カトリックを含めた一八の神学校や神学教育機関が加盟しています (二〇二一年八月現在)。年に一回、定期総会と神学教育者懇談会が一泊二日で開催され、二〇一九年五月の懇談会では、KAATS (韓国認定神学校連合会) 会長のイ・ジョンスクさんから「韓国に



ロブと愛香二人は仲よし

おける神学教育の現況」という講演を伺いました。なお、JATE と KAATS と TATE (台湾神学校連合会、ただし現在活動中止) の三団体が NEATS (東アジア神学校連合) に加盟しており、NEATS は WCC (世界教会協議会) のメンバーです。さて、JATE には三年任期の常任委員会があるのですが、その中で会長校が互選されます。そして二〇一九〜二〇二

安全保障関連法廃止！
辺野古新基地建設反対！

度の JATE の会長校は農村伝道神学校だったので (すなわち、二〇二二年の総会までは農伝が JATE の会長です)。といっても、二〇一九年五月の総会で農伝が会長校として引き継がれて間もなく、新型コロナウイルスによるパンデミックが始まり、二〇二〇年の総会は秋に延期になった上に書面議決となり、研修会もオンラインとなりました。それでもテーマとなった「コロナ禍での神学教育の課題」については多くの神学校から現状を聞き、新たに浮かび上がってきた課題を共有することができてとても有意義な会となりました。なお、二〇二〇年の KAATS の総会には JATE の会長として農伝校長のロブさんがゲストに招かれていました。が、こちらもコロナで中止。残念です。最近 NEATS から招待状が届き始めました。来年の会合のようですが、果たしてどうなることやら。

☆アフアーミング・ミニスト

リー (Affirming Ministry) は、一九八二年に、カナダ合同教会におけるレズビアンとゲイのメンバーをサポートし、完全な包含を教会がめざし主張できるよう結成された有志の活動です。そこから一九八八年のカナダ合同教会総会では、「性的指向を問わず、イエス・キリストを告白し、イエスに従うすべての人々が教会の会員であり、また会員になるように歓迎されている。すべての会員は牧師志願者となることができる。」ということが大議論の末、承認されました。このアフアーミング・ミニストリーを日本でも学んでみませんか、と日本基督教団部落解放センターが、マイノリティ宣教センターおよび、カナダ合同教会からの宣教師であり Affirming Ministry にも詳しいロバート・ウィットマーが校長を務める農村伝道神学校にも呼びかけてくださったことから、三者による話し合いが二〇二〇年五月に始まり、「カナダ合同教会のアフアーミング・ミニストリーを学ぶプロジェクト」を、プロジェクトが始動しました。

カナダ合同教会の作成したアフアーミング・ミニストリーについての文書を日本語訳したり、カナダから学ぶことは別に、日本にはどのような課題があるのかという討議、その課題に対してカナダのアフアーミング・ミニストリーが参考になる部分もあれば、差異を感じる部分なども浮かび上がってきたりと、模索しつつプロジェクトを進めています。特に、「LGBT」といった性的指向、性自認による差別を克服するという方向性の中で、女性差別といったジェンダー差別については手元にあるカナダの文書からは十分に伝わってこないと感じたり、LGBTへの取り組みの中で、女性差別がかえって放置、隠蔽される危険性さえ感じ始めたりしています。カナダ合同教会から学びつつ、それを「素晴らしいから」とそっくりまねるのではなく、「では日本は今どういう状況なのか」ということにしっかりと焦点を合わせて活動していきたいと思っています。二〇二一年四月からは二チームの研究員を選定し、日本におけるアフアーミング・ミニストリー (アフアーミング・ミニストリー) がカナダ合同教会での用語なので、この説明が適切だとは言いが切れません。が) に関する研究も始まりました。また、六月一四日には部落解放センターの全国活動者会議のオンラインプログラムにてこのプロジェクトのメンバーであるウィット

「マ」校長と平良も発題をしました。決して十分な発題ではなく、たくさん課題を残した発題でもありました。それでもこのプロジェクトが目指そうとしていることについては、きちんと取り組み続けていきたいと思いますし、これから取り組まねばならない

新任講師紹介

部落解放同盟栃木県連合会
執行委員長



和田 献一

「部落解放講座」を担当します。農伝のある町田市の自由民権資料館に、「部落・民権・キリスト教」の特設コーナーがあります。明治初期キリシタン禁令の高札が撤去された頃、冷遇されていた宣教師が横浜からやってきて、八王子の被差別部落に迎え入れられました。村人は教会を建て、キリスト者になり、現在も村にはカトリック教会があり、墓には十字架のついた墓石があります。一九二二年の全国水平社創立以前に、山上卓樹

ことを含めて、多くの人に共有していければと思っっています。農村伝道神学校として関わりをもっている活動はほかにもいろいろあります。紙面上すべてを報告することはできませんが、折りにお覚えただければ幸いです。

私たちは差別に抗しながら村の改善運動を進めました。さらに山上たちは部落差別問題を解決しようと自由民権運動に参加してきます。「先覚の碑」が残されています。部落問題は事実に基づいて語り、考えていくことが大切です。あまりにも観念的な部落問題の語りが多すぎます。

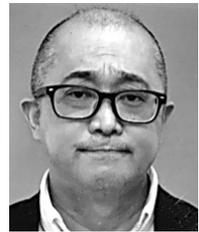
「世界の水平運動」を唱える部落解放運動ですが、海外との連帯は多くありません。フィリピンのルソン島北部山岳地帯の先住民の村を訪ね、一九八七年から連帯交流を続けています。また、アジア学院で学んだインドのダリット出身の青年が「自分たちは被差別ダリットだが、日本の部落問題を知りたいと出会う人たちに尋ねたが教えてもらえなかった」と部落解放同盟の事務所を訪ねてきました。被差別部落の集会所に宿泊した縁で、一九九二年からインド・タミルナドウ州北部の三

〇のダリット村での連帯交流を続けています。

部落問題の講座では、被差別部落に伝えられている内部文書を使います。「長吏を穢多と呼ぶは僻事（ひがごと）なり」。被差別の側から長吏の歴史をひも解くことで、他称である「エタ非人」史観を批判的に取り上げていくこととなります。

一八七一年（明治四年）明治政府は国民国家を形成するために、国境線を引き、太政官布告によって戸籍制度を施行し、「日本国民」を造り、登録しました。同年、賤民廃止令（いわゆる解放令）を布告し、「平民同様たるべきこと」としました。以来一五〇年経過しても今なお部落差別問題が解決していません。戸籍制度による制度的差別が継続しているからです。マイノリティへの差別や人権侵害は国家による法律や制度によって生み出される制度的差別なので、第二次大戦後、憲法違反の封建的家制度は廃止されましたが、家制度を支えてきた戸籍制度や民法は現行制度として機能し、制度的差別を生み出しています。制度的差別を廃止するには、マイノリティの人権を重視し、人権に例外を設けない国際人権諸条約を機能させることです。

「新人生紹介」



池田昌功

藤沢ベテル伝道所の池田昌功と申します。三月で仕事を辞め、このように入学会を許可されましたことに感謝申し上げます。若い頃から神学を学びたいという気持ちが強くなり、この年齢になり、やっと現実となったことに戸惑いと同時に不思議さを感じています。私は元来自分に自信がなく、不安感が強い人間でした。何気なく学校に行き、何気なく仕事に就いても心のどこかは何か怯えていたように思います。特に人との関係性では、なかなか心を開けず壁を作りやすい人間でした。それを埋めるかのように色々な資格取得にも挑戦しました。何とか人に応えようと努力したり、一生懸命に頑張ろうとしましたが、結局それらは生きる自信にはならなかったように思います。同じようなことは教会でも感じることもあり、自分はここにもいいのかもしれないことも多かったように思います。一時期は礼拝は出るが、人との交流ができ

ず逃げるように教会を去ることもありました。本質的には社会や教会に適応できにくい人間なのでしょう。そんな自分もキリスト教等の学びの中で少しずつ解放されていき、今はだいたい心に平安が宿っています。思い悩む傾向はいまだにありますが、聖書にのみ言葉に支えられている自分があります。

人が人と出会う確率というのは実は天文学的な数値だそうですね。人が出会うことは実は奇跡的で、そこから何かを学ばせてもらうために備えられた大切なものだと考えるのかもしれない。現在の学びは自分の知らない多くのことを学ぶことができ、とても新鮮な感覚であると共にキリスト教とは何なのか考えさせられる機会が多くあります。自分のような者に何ができるのかわかりませんが、出会いを大切に、また自分と向き合うことを課題とし、学びの中で自分のできることを模索していきたいと思うものです。



高柳研二

三月末に二八年間勤めた会社を辞してこの四月に入学会

ました。実は大学卒業後に就職した当時から機会と導きがあれば神学を学んでみたいと漠然と考えていましたが、それなりに充実した会社生活を送っているうちにあつという間に時が過ぎ去り気が付いたら50歳。さてこの辺りでちよつと立ち止まって考えてみよう、仕事のこと、将来のこと、自分がやりたいこと、家族のこと等を改めてじっくり考えてみた結果、きつと今が「その時」なんだろうと思ひ立ち、思い切つて会社を辞め農村伝

戦争責任シンポジウム

高柳研二



小野路の戦車壕跡にて

六月八日(火)に、フィールドワーク「村と戦争」小野路を歩く」と題して、戦争責任シンポジウムが行われた。

道神学校の門を叩かせて頂きました。

信仰生活としては幼い頃に両親に連れられて通った日本キリスト教団の生田教会に今でも籍を置かせて頂いていいます。信仰生活は長いのですが、今まで真面目に勉強してこなかったこともあり農伝では日々新たな学びや発見があり、充実した時を過ごさせて頂いています。まだ始まったばかりですがこれからどうぞよろしくお願ひします。

ガイドは農伝の日本近現代史講師で自由民権資料館元学芸員の杉山弘さん。

一〇時に農伝を出発し、まずは自由民権資料館を訪問した。ここでは特別展示となつていた町田自由民権カレッジの卒業論文の中からいくつかについて学芸員の井上さんにご説明頂いた。鶴川村および周辺の村の組織、とりわけ村々における青年団の役割に関するレポートでは、当時の村民の生活に関して、様々な記録や新聞記事等を通じてリアルに感じられるものであった。井上さんの話によると、これ

らの資料は主に地元の個人宅の蔵で保管されていたものだが各家庭の世代交代が進むにつれ資料の重要性に対する認識も薄れ、貴重な資料が徐々に散逸していくことを危惧しているとのことであった。

また同資料館で保管されている故市川仁三郎氏が出征先の満州で収集した写真の一部を閲覧したが、これは軍の内情に関する写真等の資料が厳しく管理されていた中で同氏が密かに持ち帰った大変貴重な資料であり、また「百聞は一見に如かず」で現地の状況を生々しく伝えるものであった。

次に訪れた私立南多摩農村図書館は既に閉館となつているが、それでも当時の雰囲気の色濃く残す建物は当時を思いをはせるには十分なものであった。また好きな本を持ち帰つていいとのこと、それほど広くないスペースながら寄付等で集まった様々な分野の蔵書が所狭しと積まれてあり、みんな「あんな本がある、こんな本もある」などとワイワイと話しながら思い思いの本を手にしたがらの楽しい時間であった。

戦車壕跡と小野神社では戦争当時の歴史を振り返ることとなった。これらはいわゆる教科書の歴史では学ぶことが

できないもので、小さな村落における戦争への関わり方を知らずにはいられない。戦車壕跡では戦争末期の本土防衛計画の一環とのことであつたがあんなところにも戦車が配備されていたという事実が驚き、また小野神社では掲げられている「至誠奉公 国威弥隆」の奉納額が納められた一九三六年は日本が戦争に向かつて突き進んでいた時期であるが、(当然のことであるが)こんな小さな村から命を散らしていったという事実を改めて思い知らされることとなった。

その後を訪れた萩生田家、福田家の屋敷墓には、明治時代の神道国教化、神仏分離の政策の中で廃寺となつた清浄院から移動された清浄院の歴史住職の墓石群、また同寺院の住職であつた福田司が復飾し、のちに神職となるべく政府に願ひ出た経緯が墓誌銘に残されており、更に道路わきの首無し地蔵を見るにおいて、大きな歴史の流れがこの小さな村に住んでいた人々の生活にも影響を及ぼしていたことを知つた。

今回のフィールドワークでは限られた時間ではあつたが、それでも様々な角度からこの地域における戦争への関与や

影響を知る大変有意義な時間となつた。時と共に徐々に忘れ去られていくこういった日本各地の小さな村々における戦争の記録も保存し、伝承していくべきものではないかと思ふものである。

修養会報告

「尊厳ワークショップ」

池田昌功

二〇二一年七月九日修養会のプログラムとして桜美林大学准教授、兼大学チャプレンであられるジェフリー・メンセンダイク氏をお招きし「尊厳ワークショップ」をディグニティモデルの紹介」と題してワークショップが開催された。内容としては尊厳とは何か改めて考えることが主要なものであり、講義、グループ討議、グループ毎の寸劇の発表等を通して内容の理解を深めた。そもそも尊厳は理解されているのか。それに伴い人間とはどういう存在なのか考えさせられるものとなつている。尊厳を尊重する行為は自然に身につくものではなく学ばなければならぬと言われる。そして「尊厳は私たちが生まれ持つている属性であり、私たちが生まれ持った価値のことです。私たちは皆価値あるものとして生まれてくるのです」

「自分の尊厳は無条件に生まれつき与えられているものであり、誰もそれを奪い取ることはできない」とされている。その尊厳理解を深めるために「尊厳の一〇の要素」「尊厳を侵害する一〇の誘惑」を学んだ。この二つがダイグニティモデルとして構成されているものであり、尊厳とは何か、その概念を日常生活と人間関係にどう利用していくかを明確にするためのものとして示されている。グループ寸劇では尊厳を尊重された、逆に尊厳を侵害された個人の経験を元にグループ毎の発表が行われ、どの要素に該当するか確認し、分かち合いの時を持った。また尊厳はつながりであるとされる。自分の尊厳を守るために他者の協力が必要であり、誰かのフィードバックがないと自分ではわからないとのことである。講師の「あなたの尊厳は私の尊厳とつながっている」という言葉がとも印象に残っている。人や組織のやる気を引き出す尊厳のリーダーシップや尊厳教育にも触れられ、普段はなかなか話されないと云うキリスト教を絡めた話しも含め、一日では十分に把握するには難しい奥深いものであったが、それぞれが尊厳を考える貴重な時間であったように思う。

同窓生個人消息

任地が変わった等で掲載可の連絡の取れた方を記載させていただきます。移動など変更のある同窓生の方がおられましたら、神学校事務までご連絡いただければ感謝です。

逝去

一 岩田雅一（神21）八戸北伝道所教師 七月二〇日召天

二 天満由加里（神56）日本キリスト教会南柏教会教師 八月一七日召天

移動

一 下園昌彦（神71）桜本教会 就任

二 横内美子（神71）見附教会 就任

三 小林明（神55）大阪生野教会を辞任し、平真教会就任

2022 年度入学案内

◆受験資格

- (1) 日本基督教団に限らずプロテスタント教会に所属し、原則として受洗後1年以上（洗礼式を行わない教派については、それに準ずる）の教会生活をしている者。
- (2) 所属教会が推薦し（可能であれば）、高卒または同等以上の学力を有すると認められる者。

◆修業年限

- 神学基礎コース：2年間（2年間で修了することも可）。基礎コース修了後、神学専門コースに進むことができる。
- 神学専門教職者養成コース：2年間
- 神学専門信徒宣教師養成コース：1年間または2年間

◆学費

- 入学金 60,000 円（入学時のみ）
- 授業料 240,000 円（年額）
- 設備費 30,000 円（入学時のみ）

◆受験手続

- 次の書類を期日までに郵送または持参する。
- (1) 入学願書（本校指定の書式）
- (2) 履歴書（本校指定の書式）
- (3) 教会（牧師または役員会）の推薦書（可能であれば）
- (4) 最終学校卒業証明書（または卒業見込み証明書）
- (5) 受験料 10,000 円（振り込み）

◆入学願書受付

- 第1回 2021年10月5日（火）～11月5日（金）
- 第2回 2022年1月4日（火）～2月4日（金）

◆入学試験日時

- 第1回 2021年11月16日（火）午前9時～午後3時
- 第2回 2022年2月15日（火）午前9時～午後3時

◆会場 本校教室

- ◆入学試験科目 (1) 小論文 (2) 旧約聖書・新約聖書 (3) 面接

◎入学願書一式、過去の試験問題集は、本校事務室まで請求ください（無料）。

農村伝道神学校

〒195-0063 東京都町田市野津田町 2024

Tel 042-735-5775 Fax 042-735-5711

Eメール：noden@pony.ocn.ne.jp

ホームページ：https://noden.ac.jp/

振替番号

農村伝道神学校 00160-6-18485

農村伝道神学校後援会 00120-6-24418

理事評議員会報告

◇六月八日（火）戦争責任シンポジウム「村と戦争」小野路フィールドワーク「ガイド」杉山弘

◇六月二十九日（火）一部授業オンライン解除（ハイブリッド授業に切り替え）

◇七月九日（金）修養会「尊厳ワークショップ」講師：ジエフリー・メンセンディーク

◇七月一六日（金）前期通常修行終了

◇七月二〇（火）～二三日（金）集中講義「部落解放講座」講師・和田献一

◇七月二九日（土）夏期実習開始（約四週間）

鳥潟紘一 白石教会
松本吉氏光 山村伝道実習

理事評議員会報告

二〇二一年度第一回理事・評議員会が六月二日（月）に生田教会にて開催された。今回は対面であったが二名がリモートで参加した。

主な議題は、二〇二〇年度の決算と事業報告、そして理事・評議員・監事の改選であった。

今回の役員改選で理事・常務理事、評議員を長く務められた横野朝彦氏が勇退され、弁護士の方野義信氏が就任した。

二〇二〇年度の決算は、神学校は故國安敬二氏のご遺族から一億八千万円の寄付の他、いくつかの大口があり、維持献金や後援会献金も好調であったことにより、経常収支に

おいては大幅な黒字となった。幼稚園は、旧来の幼稚園児

にあたる一号児としての入園児の減少が目立ってきているが、収支としては約四七〇万円の黒字で終了した。（詳しい報告は同封した事業報告・財務報告をご覧ください。）

次回、二〇二一年度第二回理事・評議員会は一月二六日（金）の予定、場所は未定。瀬戸

お知らせ

◇九月二八日（火）～二九日（水）集中講義 牧会心理学 大西秀樹、石田真弓（オンライン）

◇九月三〇日（木）～一〇月二日（土）アジア学院スタディ・キャンプ

◇一〇月一〇日（日）ほか 神学校日礼拝神学生派遣

◇一〇月一九日（火）～二三日（土）オープンキャンパス 検討中、お問合せ下さい。